

新編
教育唱歌集

文部省檢定
教育音樂講習會編

第三集



K120.73

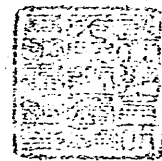
41a

3

文部省檢定
明治三十九年二月十二日

教育音樂講習會編纂
新編
教育唱歌集
第三集

東京開成館藏版



本書の歌曲は主として、諸大家が特に本書のために新作せられたるものにして、其中特に「音樂學校許可」と註せるものは該校が管て高等師範學校附屬の時代に歌曲の引用を許可したりし時、特に請ひて、本書に轉載することを許されたるものに係り、其他の歌曲は「新撰國民唱歌」及び東京開成館が著作権を有するもの、若しくは本書の編纂に當りて、當該著作権所有者の許諾を得たるものなり。

新編教育唱歌集第三集目次

一 燈臺 (國定讀本歌詞).....	一〇 學の庭.....
二 人の道.....	一一 大和撫子 (音樂學校許可).....
三 わが帝國 (國定讀本歌詞).....	一二 商船.....
四 皇御國 (音樂學校許可).....	一三 港.....
五 坂に車.....	一四 天津日嗣 (音樂學校許可).....
六 嵐山.....	一五 須磨の浦.....
七 松島.....	一六 民の務.....
八 隅田川 (音樂學校許可).....	一七 高津の宮.....
九 遠州灘.....	一八 傳書鳩.....

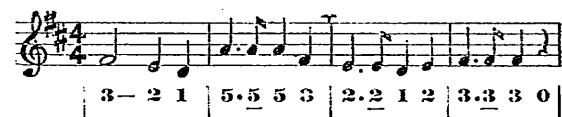
(第三集)

(第三集)

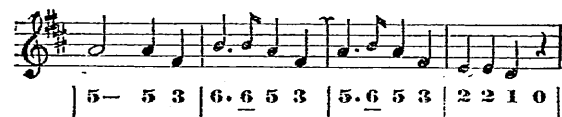
一九 四季の歌.....	二九 一月一日.....
二〇 螢.....	三〇 紀元節.....
二一 犬.....	三一 天長節.....
二二 勸學の歌.....	三二 地久節.....
二三 靖國神社.....	
二四 蟬.....	
二五 運動會.....	
二六 遊戲.....	
二七 君が代.....	
二八 勅語奉答.....	

目次終

燈臺



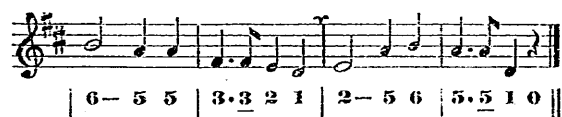
(一) ソーラニ ツキナク ホシサヘ ナクテ
(二) きーしに みさきに とーだい ありて
(三) キーメシ コーロチ ススミテ ユクバ



イッスン サキスラ ミエザル ヨルニ
とーほく おきまで ひかりて あれば
アーサセ アンショー カズアル クミモ



オーキノ キセンヤ グンカン ナドハ
おーきの きせんや ぐんかん などハ
サーハル コトナク ワタルナ リベシ



ナーニナ メアテニ コーロチ キムル
そーれを めあてに こーろを きむる
アトー ダーイノ タフト キコトヨ

燈臺

(一) 空に月なく、星さへなくて、一寸さきすら見えざる夜に、

沖の汽船や軍艦などは、なにをめあてに航路をさむる。

(二) 岸に岬に、燈臺ありて、遠く沖まで光りてあれば、

沖の汽船や軍艦などは、それをめあてに航路をさむる。

(三) きめし航路を進みて行けば、浅瀬暗礁、数ある海も、

さばることなく渡るをうべし。あー、燈臺の貴きことよ。

人の道

3 3 4 3 | 6 7 1 7 | 6 6 4 4 | 3- 0 |

(一) ツーネニナチハハダフトミテー
(二) とーもにまことなつくすべしー
(三) チシキヲヒーラキノーチツケー

3 3 1 7 | 6 7 1 6 | 7. 6 4 4 | 3- 0 |

オホモチカータクマモルベシー
おのれはみーなばつつしみてー
イサチヲターテヨヨノタメニ

2 2 3 3 | 4 4 3 3 | 6. 7 1 1 | 7- 0 |

アーニトアネトチウヤマヒテー
ひーろくしものなばあはれみてー
クーニノオキテニシタガヒテー

6 7 1 6 | 7 6 4 3 | 6. 1 3 2 | 3- 0 ||

オトウトイモトチイツクシメー
こーころやさしきじととなれー
ミーナバササゲヨキミノタメー

人の道

- (一) 常に父母たふとみて、仰をかたく守るべし。
- (二) 友に信をつくすべし。おのれは身をば慎みて、
博く物をばあはれみて、心やさしき人となれ。」
- (三) 知識をひらき能をつけ、功をたてよ世のために。
國のおきてにしたがひて、身をばさゝげよ君のため。」

わが帝國



1 3 2. 1 | 6 1 5 5 | 6 5 1. 2 | 3. 1 2 0 |
セ カ イ ニ マ タ ナ キ フ ガ ク ニ ガ ラ ヨ
ク モ マ ニ ソ ビ ユ ル ヤ マ ノ イ ト ク ニ
ノ ハ ラ チ ナ ガ ル ル カ ハ ノ ゴ ト ク ニ
ア ー ツ ガ ク ニ ハ ー ヨ キ ク ニ ガ ラ ヨ



5 5 6. 5 | 3 3 2 1 | 6 1 5 1 3 | 2. 2 1 0 ||
タ メ シ モ ア ー ラ ヌ メ イ シ ノ ー ミ ヨ ヨ
ウ ゴ カ ズ カ ハ ラ ヌ ツ ガ ク ニ ー ガ ラ ヨ
ス ス ミ テ ヤ ー マ ヌ メ イ シ ノ ー ミ ヨ ヨ
メ イ シ ノ ミ ー ヨ ハ サ カ ユ ル ー ミ ヨ ヨ

わが帝國

世界にまたなきわが國柄よ。
ためしもあるぬ明治の御代よ。

雲間にそびゆる山のごとくに、

動かすかはらぬわが國柄よ。

野原を流るゝ川のごとくに、

進みてやまぬ明治の御代よ。

あし、わが國はよき國柄よ。
明治の御代はさかゆる御代よ。」

皇 御 國

2-2 1 | 2 2 3 3 | 5 5 6 5 | 3-0 |

(一) スーメラ ミクニノ モノノフ ハー
(二) すーめら みくにの なのこら はー

3 3 5 5 | 6 6 5 3 | 2 2 2 1 | 2-0 |

イカナル コトヲカ ツトムベ キー
たわます をーれぬ こころも てー

6 6 7 7 | 5- 3 5 | 6 6 5 3 | 6-0 |

タダミニ モーテル マゴコロ ナー
のなり はー ひな つとめな しー

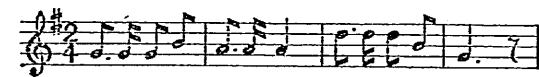
7- 7 6 | 5 5 3 5 | 6 6 5 3 | 2-0 ||

キーミト ナヤトニ ツクスマ テー
くに と たみとな とますべ しー

皇 御 國

- (一) すめらみくにの ものゝふは、
いかなる事をか つとむべき。
ただ身にもてる まごころを
君とおやとに つくすまで。
- (二) すめらみくにの をのこらは
たわまずをれぬ こゝろもて、
世のなりはひを つとめなし、
國と民とを とますべし。

坂に車



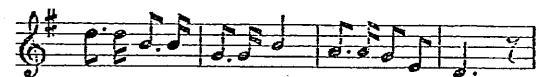
1. 1 1 3 | 2. 2 2 | 5. 5 5 3 | 1. 0 |

(一) クルマチヒキヲノボリユク
(二) まなびのみちしそのごとく
(三) クルマハアトニモドリテモ



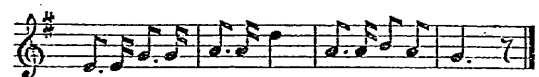
2 5. 5 | 6. 6 5 5 | 1. 1 1 3 | 2. 0 |

サカハアブナシニダンセバ
こころゆるめておこたらば
ヒカバフタタビノホルベシ



5. 5 3. 3 | 1. 1 3 | 2. 2 1 6 | 5. 0 |

クルマハアトニモドルベシ
おぼえしこともわするべし
マナセシツキヒアダニセバ



6. 6 1. 1 | 2. 2 5 | 2. 2 3 2 | 1. 0 ||

スコシノヒマモキナツケヨ
つとめよはげめあきゆふに
モモトセマタトカヘリコズ

坂に車

(一) 車をひきてのぼりゆく

坂はあぶなし。油断せば、

車はあとにもどるべし。すこしのひまも氣をつけよ。」

(二) 學の道もそのごとく、心ゆるめて怠らば、

覚えし事も忘るべし。勤めよ。はげめ、朝夕に。」

(三) 車はあとにもどりても、引かばふたゝび上るべし。

學びし月日あだにせば、もゝとせまたと還りこす。」

嵐山

(一)

嵐の山の山櫻

雪と散りくる春の日は、

さをさす舟のしづくまで、

花の香ならぬものもなし。

(二)

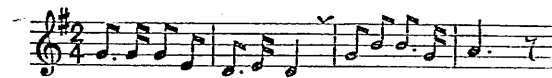
嵐の山のもみぢばの、

雨と降りくる秋の日は、

橋行く人のたもとまで、

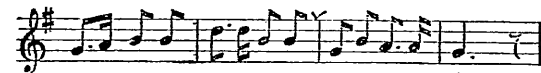
錦かざらぬかたもなし。

嵐山



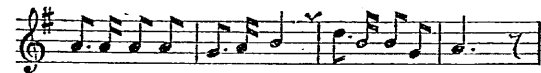
1. 1 1 6 | 5. 6 5 | 1 3 3. 1 | 2. 0 |

(一) アラシノ ヤマノ ヤマザク ラ
(二) あらしの やまの もみぢば の



1. 2 3 3 | 5. 5 3 3 | 1 3 2. 2 | 1. 0 |

ユーキト ナリクル ハルノヒ ハ
あーめと ふりくる あきのひ は



2. 2 2 2 | 1. 2 3 | 5. 3 3 1 | 2. 0 |

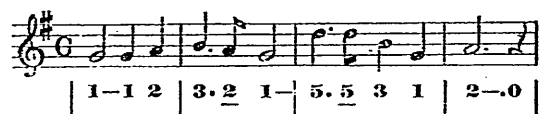
サササス フネノ シヅクマ デ
はしゆく ひとの たもとまで



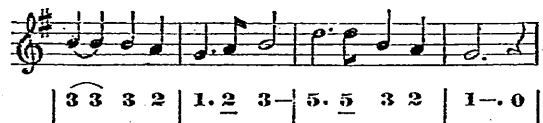
5. 5 6 5 | 1. 3 2 2 | 5. 3 3 2 | 1. 0 ||

ハナノカ ナラヌー モノモナ シ
にーしき かざらぬ かたしな し

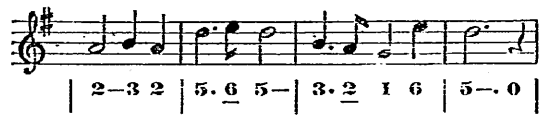
松 島



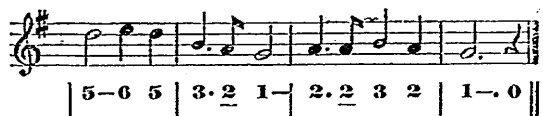
(一) コーダ ヤ コダ ヤー イ デ フ ナ コー
 (二) みーろ が ま ま にー か ぼ リ ゆ くー
 (三) ユーキ ノ ア シ ター ツ キ ノ ハー
 (四) こーだ い どー なー み き に し てー



カー か ミ ナ メ ルー ナ ミ ノ ウ ハー
 まー つ の す が たー い ぼ の さ まー
 アー ソ ア ヒ ト ハー イ カ ナ ラー
 すい が ん じー のー も リ ち か きー



ナー ミ ニ ウ カ プー ハ ッ ビ ャ グ ノー
 まーヘに た ち しー し ま ば ばー やー
 ミーレド ミレドー ハ テ モ ナ キー
 いーそに ふ れ ばー つ き に け リー



シー マ ノ カ ゲ モー ナ モ シ ロ ヤー
 あーとに と シ ぼ くー か す ひ た リー
 フー タ ゴ し シ マー ノー ユ フ ゲ キー
 しーば し と い ふー ぼ ど し な くー

松 島

(一) こげや。こげや。いざ、舟子。鏡なせる波の上、

波に浮ぶ八百の 島のかげもおもしろや。

(二) 見るがまゝに變りゆく 松のすがた、岩のさま。

前に立ちし島は、はや あとに遠く霞みたり。

(三) 雪のあした、月のよは、あそぶ人はいかならん。

みれど、みれど、果もなき 二子島の夕げしき。

(四) 五大堂を右にして、瑞巖寺の森ちかき

磯に船は著きにけり、暫しといふ程もなく。

隅田川

隅田川

(一) スーミダガハラノアサボラケー
(二) すーみだがはらのあきのよはー
(三) スーミダガハラノフユノソラー

クーモモカスミテカテルナリー
みづもみそらもすみわたるー
ヨハシロターヘニウヅモレター

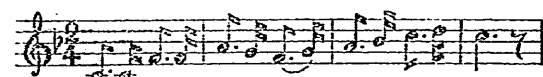
ミーヅノマニマニフネウケデー
かーぜのまにまにふれうけてー
キーギノコトゴトハナサキヌー

ハーナニアソバンチラヌマニー
つーきにあそばんよもすがらー
ユーキニアソバンキエヌマニー

隅田川

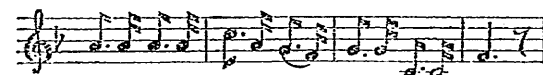
- (一) 隅田がはらの あさぼらけ、雲もかすみて、かをるなり。
水のまにく ふれうけて、花にあそばん、ちらぬまに。
- (二) 隅田川原の あきのよは、みづもみそらも すみわたる。
風のまにく ふれうけて、月にあそばん、よもすがら。
- (三) 隅田がはらの 冬のそら、よはしろたへに うづもれて、
木々のことごと 花ささぬ。雪にあそばん、消えぬまに。

遠州灘



5. 5 1. 1 3. 2 1. 2 3. 4 5. 6 5. 0

(一) シナ ジュー ゴイ ノー ナミノウヘ
(二) うみ より いでてー うみにいる



3. 3 3. 3 5. 3 2. 1 2. 2 5. 5 1. 0

カモメモトバズー シマモナキ
つきひのみかげー あふぎつつ



2. 2 2. 2 3. 2 1. 2 3. 4 5. 6 5. 0

ナガメノスエニー サカヅキ
えんしー なだなー わけゆけ



3. 3 3. 3 5. 3 2. 1 2. 2 5. 5 1. 0

フスルー スガタヤ フジノヤマ
なみよりほかにー おとしなし

遠州灘

(一)

七十五里の浪の上

鷗も飛ばず、島もなき

ながめのすゑに、さかづきを

ふする姿や。富士の山

(二)

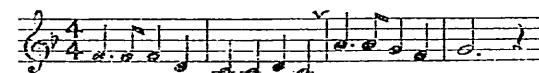
海よりいでて、海に入る

月日のみかげ あふぎつゝ、

遠州灘を分けゆけば、

波よりほかに音もなし。

學の庭



1. 1 1 6 | 5 5 6 5 | 3. 3 2 1 | 2- 0 |

(一) マ ナ ビ ノ ニーハニ ケ フ キ テー
(二) はげしく あーめの ふるひに しー
(三) ターチキ フルマヒ スベテミ ナー



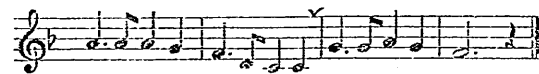
1. 1 1 6 | 5 5 6 5 | 2. 2 3 2 | 1- 0 |

コーコロ アヒタル トモダチ トー
つよく あらしの ふくひに しー
チーシヘ カシコミ マモリツ ソー



3. 4 5 5 | 6. 5 3 1 | 2. 2 1 3 | 2- 0 |

イーッモ ヤシキ センセイ ノー
たえず サマゼン せんせい のー
ヒート ナラバヤ ヨキヒト ニー



3. 3 3 2 | 1. 6 5 5 | 2. 2 3 2 | 1- 0 |

ナシヘ サウクルー リレシ サヨー
おしひば よにもー ありがた やー
ヒート ナラバヤ ヨキヒト ニー

學の庭

(一) 學の庭に今日も来て、心あひたる友だちと、

いつもやさしき先生の

教をうくるうれしさよ。

(二) 烈しく雨の降る日にも、強く嵐の吹く日にも、

たえず來ませる先生の

思は、世にもありがたや。

(三) 起居ふるまひ、すべてみな 教かしこみ守りつゝ、

人とならばや、善き人に。

人とならばや、善き人に。

大和撫子



(一) ヤーマト ナデシコ サマザマ ニー

(二) のーべの ちぐさの いろいろ にー



オーノガ ムキムキ サキスト モー

おーのが さまざま さきぬと しー



オーホシ タテテシ サチハハ ノー

おーほし たててし あめつち のー



ニーハノ サシヘニ タガフナ ヨー

つーゆの めぐみを わするな よー

大和撫子

(一)

やまとなでしこ、さまざまに、

おのがむきく さきぬとも、

おほしたててし ちゝはゝの

にはのをしへに たがふなよ。」

(二)

野^の邊^べのちぐさの いろいろに、

おのがさまざま さきぬとも、

おほしたててし あめつちの

つゆのめぐみを わするなよ。」

商 船

Musical score for the song "Shan Sen" (商船). The score is written in G major (one sharp) and 4/4 time. It consists of four staves of music with corresponding lyrics in Japanese and Romanized notation below each staff.

Staff 1:
 (一) ミ ナ ト サ テー イ ク ル ハ
 (二) あー さ び か が や く に の は た
 (三) トー ホ ク ウ ナ ラ コ エ ユ キ テ
 (四) はー た の し ろ の あ ま つ ひ の

Staff 2:
 ツー シ ナ ヘ ヲ カ シ カ ツ
 ほー し た ナー ク カ げ つ
 びー エ サ カ ニ コ ス ナ ル
 て ら く に も き と

Staff 3:
 イ ナ ト ヨ ア レ ハー ガ イ コ ク ニ
 き て き の ひ び ー い さ ま し く
 ヲ ガ シ セ ノー チ カ ラ ニ テ
 に ほ だ ん し の ゆ く て は

Staff 4:
 5. 5. 6. 5. 1. 2. 3. 3. 2. 2. 3. 3. 1. 0.
 ヲ キ ト カ フ ミ カ ノー ショー セン ヨ
 は と に ら ハー ス ゴ ス ム ナ リ
 ミ ク ノー ミ ス ナ

(第三集)

商 船

- (一) 港をさして入りくるは、砲をそなへぬ軍艦か。
 いなとよ。あれば、外國に ゆきかふ御國の商船よ。」
- (二) 朝日かがやく國の旗、ほばしら高くかゝげつゝ、
 汽笛のひびきいさましく はとばにかゝる見事さよ。」
- (三) 遠く海原こえゆきて、貿易さかんにおこすなる
 わが商船のちからにて、み國の富は進むなり。」
- (四) 旗のしるしの天つ日の 照らさぬ國もなきごとく、
 日本男子のゆくてには、青海原に波もなし。」

(第三集)

港

(一) 空も港も夜ははれて、
月に数ます船のかげ。

(二) 林なしたる檣に
花と見まがふ船旗章。
よせくる波も黄金なり。

端艇のかよひにぎやかに、
積荷の歌のにぎはひて、
港はいつも春なれや。

港

(一) ソーラモ ミナトモ ヨハハレ テー
(二) はーやし なしたる ほぼしら にー

ワーキニ カズマス フネノカ ゲ
はーなと みまが ふ なじる し

ハシケノ カーヨヒ ニギヤカ ニ
つみにの うーたの にぎはひ て

ヨセクル ナーミモ ツガネナ リ
みなとは いーつも ぼるなれ や

天津日嗣

(一) あまつひつぎのみさかえは、
あめつちのむた、きはみなし。
わがひのものと、みひかりは、
月日とともに、かがやかん。

(二) 葦原のちいほあき、
みづほのくには、日のみこの
きまとますべきところぞと、
神のみよより、さだまれり。

(第三集)

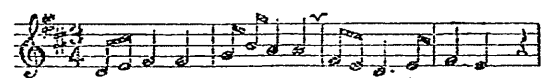
(第三集)

天津日嗣

(一) あまつひつぎのみさかえは、
あめつちのむた、きはみなし。
わがひのものと、みひかりは、
月日とともに、かがやかん。

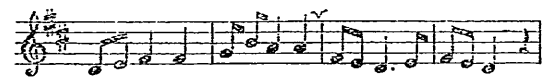
(二) 葦原のちいほあき、
みづほのくには、日のみこの
きまとますべきところぞと、
神のみよより、さだまれり。

須磨の浦



1 2 3 3 | 4 6 5 5 | 3 2 1. 2 | 3 2 0 |

(一) ハー マ ノ チドリノ カー ヨ フ ナ ル
(二) まつ ふ く かー ぜ に なー じ か な く



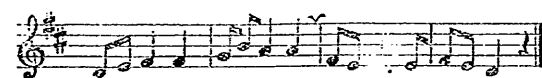
1 2 3 3 | 4 6 5 5 | 3 2 1. 2 | 3 2 1 0 |

アー ハ ダ シ マ ヤ マ ホー ノ キ ノー ト
まー や の い た だ き つー き き まー く



5 5 6 5 | 1̇ 6 5 | 3 2 1. 2 | 3 5 2 0 |

カ ス メ ル ナ カ チ マ ホ カ ー ター ホ
よ せ く る な み の と ほ っ ー づー み



1 2 3 3 | 4 6 5 5 | 3 2 1. 2 | 3 2 1 0 |

ノ ー ド ケ カ リ ケ リ スー マ ノ ウー ラ
しー づ け か り け り すー ま の うー ら

須磨の浦

(一)

濱の千鳥の通ふなる

淡路島山ほのぼのと

かすめる中を、真帆片帆

長閑かりけり、須磨の浦

(二)

松ふく風に小鹿なく

摩耶のいただき、月清く、

寄せ来る波の遠鼓

静けかりけり、須磨の浦

民の務

5.5 5.5 | 1.1 1 | 3.3 2.1 | 2. 0 |

(一) ソガニッ ホンノ シンミン ヘ
(二) わがとー よーに ことあら ば

3 2.2 | 1.1 6.6 | 5.5 6.5 | 5. 0 |

ク ニニ タイ スル ツトメア リ
み よや かいだい みなへい ぞ

5 5.6 | 5.5 3.3 | 1.1 3.2 | 2. 0 |

カ タニ テッ ボー コシニク ン
リ く に ほーだい うみにふ れ

1.1 5.5 | 3.3 5.5 | 2.3 2.1 | 1. 0 |

イザタテ ダンショ キミノタ メ
まられや だんじよ みをすて て

(第三集)

(第三集)

民の務

- (一) わが日本の臣民は
國に對する務あり。
- 肩に鐵砲腰に劍
いざ起て男兒よ君のため。
- (二) わが東洋に事あらば、
見よや海内みな兵ぞ。
- 陸に砲臺海に艦
ままれや男兒よ身をすてて。

高津の宮

2 2 1 2 | 3. 1 5 5 | 3 3 5 5 | 6- 0 |

(一) タ カ ツ ノ ヤ ホ テ ミ タ マ ヘ パー
(二) カ ミ セ ヲ レ ヲ フ ギ リ ヲ の ル セ ト ノー
(三) ミ ト タ レ ヲ ム ナ マ トー
(四) オ ミ フ アー
(五) アー

5- 3 3 | 2 2 1 2 | 3 3 5 3 | 2- 0 |

ナー ガ メ ハ ナ キ ク ニ パ ラ ニー
つー き は テ ド も ふ き セ ノー
メー ア ミ ア ネ キ ミ コ ト ム リー
たー カ キ ナ サ ケ ノ ミ コ ト ハー
フー

1- 2 2 | 6 6 5 5 | 6- 6 1 | 2- 7- |

ター デ ル ケ ム ノ スー ク ナ キー
たー ク ト な げ き な みー ひ と つー にー
アー メ ト ナ ル ホ ヒ ツー ム トー
いー ま ど け た か テ ター グ ヒ ナー
チー

6 6 5 3 5 | 6- 5 3 | 2 2 1 1 | 2- 0 |

マ ズ シ キー ヒー ト ヤ と ホ カ ラー
ゼ い し ばー うー れ ヲ た ま ひ けー
ア ナ ヒ トー グー サ ニ カ ル ラー
と み たー く に の い る み せー
ヒ シ ノー ミー ヲ ア フ グ ナー

(第三集)

(第三集)

高津の宮

(一) 高津の宮より見給へば、ながめはてなき國原に
立てる烟のすくなきは、貧しき人や多からん。
大宮やぶれて、檐端より 月は漏れども、葺きもせず。
民のなげきを身一つに、聖主は憂ひたまひけり。
三年の貢をゆるせとの、恵あまれきみことのり。
雨とうるほひ、露とおき、青人草にかゝるらん。
ふたたびのぼりて見給へば、民のかまどの朝けむり
今ぞゆたかに立ちのぼる、富みたる國の色みせて。
あゝ、われ富めりと、のたまひし 深きなさけの御言葉は、
千代につたへて、たぐひなき ひじりの御代と仰ぐなり。

高津の宮

三四

傳書鳩

傳書鳩

(一) センリノホーカニ アソビテハ

(二) むかしはかりに ふみつけし

(三) シメンチデーニ カコメレシ

(第三集)

傳書鳩

- (一) 千里の外に遊びては、
なれし古巢のわがやどに、
忘れぬ道をかへりくる
鳩のかしこさよ。
- (二) 昔は雁に書つけし
話はあれど、今の世は
いくさの中のつかひする
鳩のかしこさよ。
- (三) 四面を敵に圍まれし
わが陣中の音づれを、
身方に傳へ知らせたる
鳩のかしこさよ。

四季の歌

1. 1. 2. 3. 5. 5. 6. 6. 5. 5. 3. 1. 2. 0

(一) ア ケ ヲ ソー ラ ノ ハ ツ ガ ス ミ
(二) ま ー の ひ か げ の あ た た か に
(三) か キ ニ ニー ホ フ モ ノ ナ
(四) し に ひ い で か ひ は ら

1. 1. 2. 3. 5. 5. 3. 5. 2. 2. 3. 2. 1. 0

ウ ス ア ラ サ キ ニ タ ナ キ テ
う め の つ ー み の ぶ く ら み シ
ミ ナ ハ アー キ タ ジ
あ き は ま ぐ り か す

2. 2. 2. 2. 3. 3. 1. 3. 2. 2. 1. 6. 5. 0

ノ ー ル ア サ ノ ノ ド ケ サ ハ
う ぐ ひ す キ ナ く か リ し し ハ
チ の テ モ グ ラ ン ヒ ト エ め チ
き の ふ かー ご に み ち に グ リ ナ リ

5. 5. 3. 1. 2. 1. 2. 3. 1. 1. 6. 5. 1. 0

ハ ル ノ ヒ カ ヲ ニ ナ リ リ
の ま も ー ベ テ リ な る ケ
ハ ツ ヒ マー ヅ ー ャ ス ル イ ハ
け ふ た た づ か ん ち ら う へ ニ

(第三集)

四季の歌

(第三集)

一月 あけゆく空の初霞、うす紫にたなびきて、
のぼる朝日ののどけさは、春の光になりけり。
二月 窓の日影のあたゝかに、梅のつぼみのふくらみて、
鶯きなくをりしもぞ、野山もなべてかをるなり。
三月 垣根にほふ桃の花、南はあかく北白し。
折りておくらん、一枝を、初雛まつりする家に。
四月 汐干にいでて、貝ほれば、あさり、蛤かずおほし。
きのふも籠に満ちにけり。けふまたゆかん、父上と。

五月 茶摘の歌のはなやかに、はやくも夏は来りけり。

いちごとりつゝ遊びたる 故郷の山ぞおもはるゝ。

六月 門田のおもに賤の女が うゑし早苗の葉末より、

夜はみだれて飛ぶ螢 あつめてゆかん、わが袖に。

七月 蓮の浮葉に玉見えて、すすしく霽るゝ夕立の

そらを色どる虹の色。神のかけたる反橋か。

八月 きよき渚に汐あびて、夏の盛もわすれけり。

磯の松風、波の音、よるひる盡きぬ友として。

九月 雲はあらしに拂はれて、くまなくすめる秋の月。

おもへば、今日は十五夜の 祭やすらん家ごとに。

十月 野分の風の音すぐく、散りしもみち葉ふみわけて、

秋の山路を朝くれば、里の板橋霜しろし。

十一月 月かけ寒く、風さえて、半こほれる池の面に、

なにもとむらん一むれの 雁なきて、下りにけり。

十二月 ひらくおつる白雪に 庭のかれ木も花をつけ、

賤がわら屋もうつもれて、玉のうてなとなりけり。

螢

- (一) いざ、こよ、螢、こゝに來て、照らせ、書よむわが窓を。
 三つ、四つ、一つ、露とちり、玉とぞ輝く。面白の蟲よ。」
- (二) いざ、こよ、螢、こゝに來て、しばしは休め、わが庭に。
 昔の人のいそしみを、思ひぞやらるゝ。なつかしの蟲よ。」
- (三) 螢よ。ほたる。ぬばたまの、やみを照して、飛べ。ほたる。
 木の間を縫ひて、上に下に、緒をぬき亂しし玉の光。あはれ。」
- (四) 螢よ。ほたる。唐人の、まなびの窓を照しける
 優しきなさけ、今もなほ、しるけくありけり。汝が光あはれ。」

螢

5. 5 5 5 | 6 5 3 1 | 1. 2 3 2 1 | 2- 0 |

(一) イ ザ コ ヨ ホ タ ル コ コ ニ キー テー
 (二) い ざ こ よ ほ た る こ こ に きー てー
 (三) ホ タ ル ヨ ホ タ ル ヌ パ タ マー ノー
 (四) ほ た る よ ほ た る か ら び とー のー

6. 6 5 6 | 5 5 3 3 | 2. 2 2 1 3 | 5- 0 |

テー ラ モ フ ミ ヨ ム リ ガ マ ドー チー
 し ば し ば や す めー わ が に ばー にー
 ヤー ミ ナ テ ラ シ テ ト ベ ホ ター ルー
 ま な び の まー ど を て ら し げー るー

1 1 5 1 | 2- 1 2 | 6- 1 6 | 5 6 3 0 | 6 6 5 5 |

ミ ツ ヨ ツ フー タ ヅ ツー ユ ト チー リ タ マ ト ヅ
 む か し の ひー と の いー そ し あー な お ら ひ ぎ
 コ ノ マ ナ ヌー ヒ テ ウー ヘ ニ シ タ ニ サ ナ ツ キ
 や さ し き なー さ け いー ま も なー ほ し る け く

3 3 1 1 | 2- 5 6 | 5 1 2 0 | 3- 2 | 1- 0 |

カ ガ キ ク オー モ シ ロー ノ ムー シ コー
 や ら る る なー つ か しー の むー し よー
 ミ グ シ シ ター マ ノ ヒ カ リ アー ハ レー
 あ り け り なー れ が ひ か り あー ば れー

犬

(一) 月^{つき}白^{しろ}く、風^{かぜ}さむき 冬^{ふゆ}の夜^よも、外^{そと}にゐて、

何^{なに}とて、小^こ犬^{いぬ}は門^{かど}守^{まも}る。主^{あるじ}のために、家^{いへ}のために。」

(二) 雪^{ゆき}ふりて、風^{かぜ}寒^{さむ}き 冬^{ふゆ}の日^ひも、野^のにいてて、

獲^え物^{もの}をたづぬる獵^{かり}人^{びと}に、あ^ありか^かを告^つぐる犬^{いぬ}の功^{いさを}。」

(三) ただ三^{みつ}日^か飼^かはれたる 主^{しゅじん}人^{じん}にも、義^ぎを知^しりて、

恩^{おん}をも思^{おも}ひ、忠^{ちゅう}をなす。か^かはゆき^{ゆき}もの^{もの}は、犬^{いぬ}よ。犬^{いぬ}よ。」

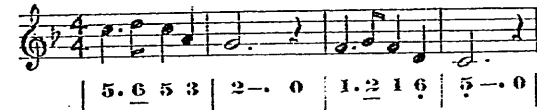
犬

四四

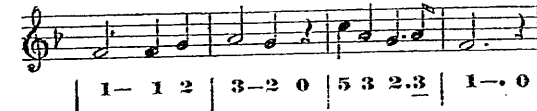
(第三集)

犬

犬



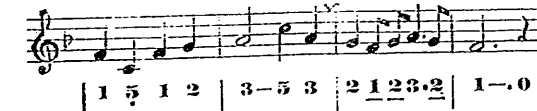
(一) ツ キ シ ロ ター カ セ サ ム キー
(二) ゆ き ふ り てー か ぜ さ む きー
(三) タ ダ ミ ッ カー カ ハ ン タ ルー



フー ユ ノ ヨーモ ソ ト ニ ホ テー
ふー ゆ の ひーし の に い てー
シュー ジン ニーモ ギ チ シ リ テー



ナ ニ テ コ イ × ハ カ ド マ モ ルー
え も の な た づ ぬ る か り び と にー
ま ン チ モ ガーモヒ チューチナ スー



ア ル シ ノ ターメニ イヘノタメ ニー
あ り か な つーぐる いぬのいさ なー
カ ハ ユ キ モーノハ イ×ヨイ× ヨー

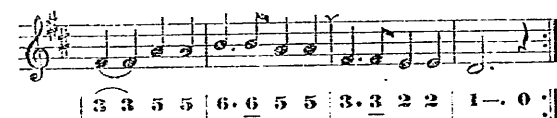
四三

(第三集)

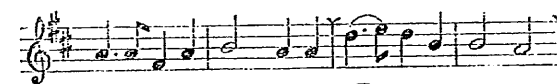
勸學の歌



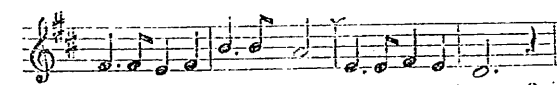
(一) アーダニ スゴスナ ケフノヒ ナー
ムーダニ クラスナ コノトシ ナー
(二) たーだに おくるな けふのひ なー
あーりと おもふな あすのひ なー



ケーフハ フタタビ カヘリ コズー
コトシハ マタ メケリ コズー
わーかき つきひ 11 またとこ すー
おーいて くゆとも およぶま じー



マナビノ ニーハニ ツードフ コーヨー
なしへの そーのに まーなぶ こーよー



タユマズ ツメヤー ナシヘグ サー
おくれず ひろへー はなしみ しー

(第三集)

勸學の歌

(第三集)

(一) あだにすぐすな、今日の日を。今日は再び歸り來ず。

むだにくらすな、この年を。ことしはまたと回り來ず。

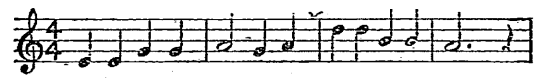
學の庭につどふ子よ。たゆまずつめや、をしへ草。」

(二) ただに送るな、今日の日を。少き月日はまたと來ず。

ありと思ふな、明日の日を。老いて悔ゆとも、及ぶまじ。

教の園に學ぶ子よ。おくれず拾へ、花も實も。」

靖國神社



| 3 3 5 5 | 6-5 6 | 2̇ 2̇ 7 7 | 6- 0 |

(一) ヲガオホ キーミノ オンタメニ
(二) ちよだの みやの きたにして



| 6 6 6 7 | 5 5 3 5 | 6 6 5 3 | 2- 0 |

イノチ ササグシ マスヲチ ノ
くーにの みやこの ただなか に



| 1 1 2 2 | 3- 5 5 | 6 6 5 3 | 6- 0 |

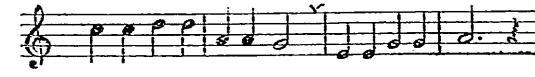
ミタ マチ イツク ヤスクニ ノ
しづまり まーせる やすくに の

靖國神社 (つづき)



| 5 5 3 3 | 2 2 1 2 | 3 3 5 3 | 2- 0 |

ミカミノ ミイツノ アラタカ ニ
みかみの みやの たふとき よ



| 1̇ 1̇ 2̇ 2̇ | 6 6 5- | 3 3 5 5 | 6- 0 |

マモラセ タマフー ヲガクニ ハ
いとくを あふぐー こくみん の



| 2̇ 2̇ 7 7 | 6 6 5 3 | 2 2 2 1 | 2- 0 ||

ヤスケク シンケシ トコシヘ ニ
まことほ かほらじ ちよやち よ

靖國神社

(一) わが大君のおんために、

命さゝげしますらをの

み魂をいつく靖國の

み神のみいつの、あらたかに、

護らせたまふわが國は、

靖けくしづけし、とこしへに。」

(第三集)

(第三集)

(二) 千代田の宮の北にして、

國の都のただ中に、

しづまりませる靖國の

み神の宮居のたふとさよ。

威徳をあふぐ國民の

誠はかはらじ、千代八千代。」

蟬

(二) 聲こゑ聞ききつて、
 蟬せみ網あみもちて、
 知りてか、蟬せみは飛とぶよと見みしに、
 かなたに時雨しぐれ また一ひとしきり。」

(一) 松まつふく風かぜが、
 梢こずえに蟬せみの なくなる 雨あめが、
 ぬけがらおきて、いづくへ行きし。
 あたりの枝えだに、姿すがたも見みえず。」

蟬

(一) マツ フク カー セ カ シ グ ル ア メ カ
 (二) こ ゑ き き つ ー け て か け く る こ ど も

コ ズ エ ニ セ ー ミ ノ ナ ク ナ ル コ ズ ハ
 セ み た ま し ー ち て う か が ひ よ る ゐ

メ ケ ガ ラ ー オ キ テ イ ツ ク ヘ ユ キ シ
 し り て か ー セ み は と ぶ よ と み し に

ア タ リ ノ エ ー ダ ニ ス ガ タ モ ー ミ エ ズ
 か な た に し ー ぐ れ ま た ひ と し き り

運動會

(一) ノド カニ カス ムー ハル ノ ノー
 トー ヨト カケ テ ト ビ ク ル ヒー
 にー し ば な の へ の ま つ ば や しー

(二) コー ナ タ カ ナ タ ニ オ モ フ ド チー
 チョー ト ム ツ レ テ マ ヒ ア ソ プー
 おー も ふ と も ど ち く み わ け てー
 ひ が し たー に の は ば そ ば らー

ソー デ チ ツ ラ ネ テ ス ミ レ ツ ミー
 ア ナ ナ シ ロ ノ ケ フ ノ ヒ ヤー
 みー の ま わ じ い り た た か へ ばー
 ヤー ナ ヤ サ ク ラ チ カ ザ シ ツー
 アー ナ オ ヨ シ ロ ノ ア ソ ビ ヤー
 かー リ に よ ほ ぎ ふ て き み かー
 ちー し ほ み な ぎ ゅ ふ あ らー

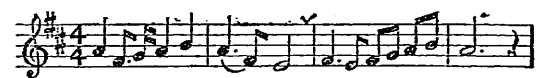
(第三集)

運動會

(第三集)

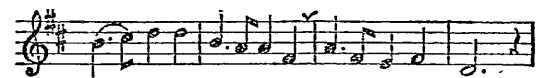
- (一) のどかに霞む春の野の こなたかなたに、思ふどち
 袖をつられて、堇つみ、柳さくらをかざしつゝ、
 鳥と翔りて、飛び狂ひ、蝶と睦れて、舞ひ遊ぶ。
 あな、面白の今日の日や。あな、面白のあそびやな。」
- (二) 木の葉色づく秋の山、思ふ友どち組分けて、
 みねとふもとに立ち別れ、假によそほふ敵身方。
 西は尾の上の松林、東は谷の柞原。
 このま分けいり、戦へば、ちしほ漲る、夕あらし。」

遊 戯



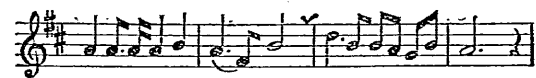
5 3 4 5 6 | 5 3 2- | 3 2 3 4 5 6 | 5- 0 |

(一) メグミアマ ネーキー ハルカーゼー ハー
(二) てな-ひき つれて- ともだ-ち- は-
(三) コチャ-ート ナミテ- ヤヨア-ソ- ペ-



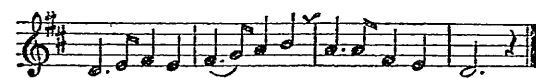
6 7 1 1 | 6 5 5 3 | 5 3 2 3 | 1- 0 |

ノ-ベノ カサバニ イマツ フ クー
ひとつの に-はに あつ まり め-
コトリト ナ-リテ イザア ソ ペ-



5 5 5 5 6 | 5 3 6- | 1 6 6 5 4 6 | 5- 0 |

イデテアソ ベーヤ- ヤヨコード- モー
ゆ-ぎはじ め-よ- いざこ-ど- も-
ユ-ギハジ メ-テ- モロト-モ- ニ-



1 2 3 2 | 3 4 5 6 | 5 5 3 2 | 1- 0 ||

コトリモ ハーナニ ウタフナ ヨー
こち-も そ-らに あそぶな リー
ミ-ヨノ メグミチ ウタヒ ツ-

(第三集)

遊 戯

(一) めぐみあまれき春風は、野邊の草葉に今ぞ吹く。

いてて、あそべや。やよ、子ども。

小鳥も花にうたふなり。

(二) 手を引きつれて、友だちは ひとつの庭にあつまりぬ。

遊戯はじめよ。いざ、子ども。

胡蝶も空にあそぶなり。

(三) 胡蝶となりて、やよ、あそべ。小鳥となりて、いざ、あそべ。

遊戯はじめて、もろともに

御代の恵をうたひつゝ。

(第三集)

君 が 代



君が代

君が代は、

千代に、八千代に、

さざれいしの

いはほとなりて、

こけのむすまで。

勅語奉答

| 5 5 $\dot{1}$ 5 | 6- 5 3 | 1 2 3 1 | 5- 0 |
 ア ナ タ フ ト シ ナ オ ホ ミ コ ト-

| 6 6 $\dot{2}$ 6 | 6- 5 3 | 5 5 3 3 2 3 | 1- 0 |
 ミ コ ト ノ ム ネ ナ コ コ ロ ニ エ リ テ-

| 2- 3 2 | 1 3 5 5 | 6 6 $\dot{1}$ $\dot{1}$ | 5- 0 |
 ツ- ヌ モ ソ ム カ シ ア サ ユ フ ニ-

| 6 6 $\dot{2}$ 6 | 6- 5 3 | 5 3 2 3 | 1- 0 |
 ア ナ タ フ ト シ ナ オ ホ ミ コ ト-

(第三集)

勅語奉答

(第三集)

あな、たふとしな、
 大勅語。
 みことの趣旨を心に刻りて、
 露もそむかじ、朝夕に。
 あな、たふとしな、
 大勅語。

勅語奉答

一月一日



(一) トーシノ ハジメノ タメシト テー
(二) はつひの ひーかり あきらけ くー



チーハリ ナキヨノ メデタサ チー
なままる みーよの けさのそ らー



マツタケ ターテテ カドゴト ニー
きーみが みかげに たぐへつ っー



イーハフ ケフコソ タノシケ レー
あーふぎ みるこそ たふとけ れー

一月一日

(一) 年のはじめの ためしとて、

終なきよの めでたさを、

松竹たて、かどごとに

祝ふけふこそ、たのしけれ。

(二) 初日の ひかりあきらけく、

治る御代の けさの空、

君が みかげに たぐへつ、

いはふ 今日こそたふとけれ。

紀元節

(一) クー モー ニー ソー ユー ルー ター チー ホー ノー
(二) うー なー ばー なー せー るー はー にー やー のー
(三) アー マー ツー ヒー ノー ター カー ミー ラー
(四) そー らー にー かー がー ひー のー

(一) ター カー ネー オー シー ニー クー サー モー キー モー
(二) いー けー のー おー もー リー なー ほー ひー るー きー
(三) チー ヨー ロー ズー ヨー ニー ナー りー ゴー キー ナー
(四) ょー づー のー くー にー たー ぐー ひー なー きー

(一) ナー ビー キー フー シー ケー ンー オー ホー ミー ヨー ナー
(二) めー ぐー のー ナー ナー ミー ゼー あー みー しー よー ナー
(三) モー トー のー サー ダー メー ソー ノー カー ナー
(四) くー にー のー ばー しー らー たー しー よー ナー

(一) アー フー グー ケー コー ソー ター ノー シー ケー レー
(二) あー ふー ぐー けー ふー コー たー のー しー けー れー
(三) アー フー ぐー けー ふー コー たー のー しー けー れー
(四) あー ふー ぐー けー ふー コー たー のー しー けー れー

(第三集)

(第三集)

紀元節

- (一) 雲に聳ゆる高千穂の高嶺おろしに、草も木も
なびきふしけん大御代を 仰ぐけふこそ、たのしけれ。
- (二) 海原なせる埴安の池の面よりなほひろき
恵の波にあみしよを 仰ぐけふこそ、たのしけれ。
- (三) 天津日嗣のたかみくら 千代萬世に動きなき、
もとねさだめしその上を あふぐ今日こそ、たのしけれ。
- (四) 空にかがやく日のものと、よろづの國に類なき
國のみはしらたてしよを 仰ぐけふこそ、たのしけれ。

天長節

今日のよき日は、大君の うまれたまひしよき日なり。

今日のよき日は、み光の さしてたまひしよき日なり。

光あまれき君が代を いはへ、もろ人、もろともに。

恵あまれき君が代を いはへ、もろ人、もろともに。

天長節

ケ-フノ ヨキヒハ オホキミ ノー
ケ-フノ ヨキヒハ ミヒガリ ノー

ウ-マレ タマヒシ ヨキヒナ リー
サ-シテ タマヒシ ヨキヒナ リー

ヒ-カリ アマネキ キミガヨ チー
メ-ガミ アマネキ キミガヨ チー

イ-ハ ヘ モロビト モロトモ ニー
イ-ハ ヘ モロビト モロトモ ニー

地久節

(一) 晝はかがやく大空の 日に、萬代の春長く、
 夜はすみわたる山の端の 月に、八千代の秋久し。

(二) 遠く久しき行末の 榮いはふかほととぎす
 かくれぬ聲をふりたてて、今宵は空に名のるなり。

(三) 野邊の姫百合、女郎花、花咲くをりをたがへぬも、
 たもとに滋き露の恩。わするな、今日のよき時を。

(四) 山田に草取る賤の子も、海に網引く海士の子も、
 いざ、聲あはせて、唱ふべし、きさいの宮の萬歳を。

(第三集)

地久節

(一) 晝はかがやく大空の 日に、萬代の春長く、
 夜はすみわたる山の端の 月に、八千代の秋久し。

(二) 遠く久しき行末の 榮いはふかほととぎす
 かくれぬ聲をふりたてて、今宵は空に名のるなり。

(三) 野邊の姫百合、女郎花、花咲くをりをたがへぬも、
 たもとに滋き露の恩。わするな、今日のよき時を。

(四) 山田に草取る賤の子も、海に網引く海士の子も、
 いざ、聲あはせて、唱ふべし、きさいの宮の萬歳を。

(第三集)

教育唱歌全八册

| | |
|-----------------------|----|
| 明治二十九年一月二日第一集 | 印刷 |
| 明治二十九年一月十日第一集 | 發行 |
| 明治二十九年五月十五日第二集 | 印刷 |
| 明治二十九年五月廿六日第二集 | 發行 |
| 明治二十九年八月一日第一集訂正再版發行 | 發行 |
| 明治二十九年十二月廿五日第二集訂正再版發行 | 發行 |
| 明治三十年十二月十五日第二集訂正三版發行 | 發行 |
| 明治三十年十二月廿五日第一集訂正三版發行 | 發行 |
| 明治三十一年七月五日第二集訂正四版發行 | 發行 |
| 明治三十八年八月十七日修正五版發行 | 發行 |
| 明治三十九年一月廿五日訂正六版印刷 | 印刷 |
| 明治三十九年一月廿八日訂正六版發行 | 發行 |

定價各册金拾八錢

著作權所有★不許拔萃

編纂者 教育音樂講習會

發行所 東京市小石川區小日向水道町七十三番地

發行所 西野虎吉

東京市京橋區築地三丁目十五番地

印刷所 野村宗十郎

東京市小石川區小日向水道町七十三番地

發行所 東京開成館

電話特將町三五五番

大阪市心齋橋通北久寶寺町角

發行所 大阪開成館 三木佐助

東京市日本橋區通三丁目

發行所 六合館 林平次郎

心林